

I. 歓迎の挨拶

- A. グッドモーニング！おはようございます！カルバリー教会岩国によろこお越しくできました。
1. 新しく訪れた方々やオンラインを通して礼拝に参加している方々も歓迎します。
- B. 礼拝を進めていく前に、小学生の子供たちは日曜学校のクラスに行ってもらいましょう。
- C. (第二礼拝) 子供たちを日曜学校に行かせる前に、今朝は、素晴らしく名誉なことである、赤ちゃんの献児式を行います。
1. 献児式は、リクエストに応じて時々行っています。
- a. それには、いくつかの異なる役割を果たすものです。1つ目は、お父さんとお母さんが、主と主の恵み深い命の賜物を皆さんの前で感謝し、認める機会を与えるものです。
- b. 2つ目は、お父さんとお母さんが、授かった命を主の道に従って育てていくことを皆さんの前で誓うための機会です。
- i. 箴言 22 章 6 節には、主の道を歩むように子供達を訓練するように熱心に勧めています。そして、子供たちが成長しても、その訓練されたことから外れることはないことを保証しています。
「6 若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」(箴言 22 章 6 節)
- c. そして、3つ目は、献児式は、教会（キリストの身体の御前）で行うものです。なぜなら、私たちもその過程の一部だからです。教会の一員として、私たちは、主の御前で家族の誓いの証人となり、主の道に子供を育てていくこと（その挑戦）のために、家族を助けることができる助け人となれるよう私たち自身も捧げるのです。
- d. 献児式は、子供の信仰や救いに結びつくものではありません。
- i. 私たちはこれを献児式と呼んでいますが、実際には、両親が自分の子供に対して行う献身なのです。
- ii. 両親は、主の道に従って子供を育てることに人生を捧げます。そして、子供たちにキリストを知るためのあらゆる機会を与え、最終的には、祈りを捧げ、いつの日か自分の人生をイエスに委ねる決心をさせることができるようなクリスチャンの家庭を築くことです。
- iii. そしてそれは、子供達が主と共に歩む姿を見ることがすべての親の希望であるべきです。親の心にどれほどの喜びと満足感をもたらすことでしょうか。愛する弟子ヨハネは次のように語っています。
「4 私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大きな喜びはありません。」(ヨハネの手紙第三 4 節)
2. 今朝、バード キャノンさんとアレキシスさんは、新たに加わったアビゲ

ル イレーネを主に捧げます。バード一家は、2週間余り前にアビゲルちゃんを授かりました。

- a. キャノンさんの母親のタミーさんもいらっしやっており、キャノンさんの兄のガボンさんもいらっしやいます。今日は、タミーさんとガボンさんの最後の日曜日になります。バード家にとって、血のつながった家族、そして霊的な家族にも支えられながら、この献児式を行うことは、なんと素晴らしい機会でしょうか。
 - b. キャノンさん、アレキシスさん、前に出て来てください？（アビゲルちゃん、バード家族；キャノン、アレキシス、お兄ちゃんのエズラくんのために祈る）
 - c. バード一家が席に戻ったところで、小学生は日曜学校のクラスに、そして、バイブルイングリッシュクラスも同様にそれぞれのクラスに行ってください。
- D. 2週間前に、私たちはヘブル人への手紙の学びを概要から始め、この手紙全体にわたるテーマである、イエス・キリストの優越性と優位性に注目しました。
1. イエス・キリストは何ものにもまさっています。
 2. この手紙の著者は、ユダヤ人信者のグループに宛てて書かれています。彼らは最近、キリストへの信仰のゆえにいくつかの困難や迫害を経験しており、モーセの律法に従い、ユダヤ教のラビや他の宗教指導者たちの習慣や教えを守るといふ、以前の生き方に戻った方がいいのではないかと考え始めています。
 3. 著者は、律法の古いやり方に引き戻されそうになっている人々に、そうすることは重大な誤りであることを説明するために書いています。キリストとの個人的な関係において、またキリストとの個人的な関係を通して得られるものは、律法に戻ることによって得られるものよりもはるかに偉大なものです。
 4. イエスは、律法の成就者であり、律法と預言者はすべてキリストを待ち望んでいました。そして、キリストが来られた今、古いものは捨て去られる必要があります、古いものはもはや時代遅れである。新しいもの、はるかにすぐれたものに置き換えられました。
 5. 先週の学びでは、まず1章の最初の3節を見ました。そこでは、著者が、神の意志と神の言葉を父祖たちに啓示した昔の預言者たちよりも、イエスの方がまさっているという主張を展開しました。イエスはよりすぐれた啓示でした。
 - a. 神はさまざまな時に、さまざまな方法で、ご自分をこの世に現すことを選ばれました。創造物を通して、私たちの良心を通して、そして預言者たちを通して、神ご自身を現わされました。しかし、創造物、私たちの良心、そして預言者たちが伝えたメッセージは、罪によって傷つけられ、時には一貫性がなく、不完全なものに見えました。
 - b. よりすぐれた啓示が必要であり、神は御子イエス・キリストを通してそれを与えくださった。神はこの終わりの日に、イエス・キリストを

通してご自身を現わすことを選ばれました。イエスはよりすぐれた啓示であり、神の可能な限りの最高の啓示です。なぜなら彼自身が神だからです。

- E. 今朝は、著者が少し方向を変えて、御使いと比較してキリストについて語り始める1章の残りの部分を取り上げたいと思います。
1. 先週の主張は、イエスは預言者たちよりもまさっており、よりすぐれた神の啓示であるということでした。今週も引き続き著者は主張を展開し、いかにイエスが主の御使いよりもまさっているかが強調されています。
 2. 今朝の学びのタイトルは、「御使いよりもまさるもの」です。聖書はヘブル人への手紙1章4節から14節です。
 3. それでは、聖書をお持ちでしたら、ヘブル人への手紙1章を開いてください。そして、開きましたら、神と神の御言葉に敬意を表して起立してください。
 4. 私は私の聖書を読んでいますので、あなたはご自分の聖書を読みながらついてきてください。著者は、4節で続けて、キリストとキリストの優位性について語っています。(R & P)

II. 前置きと概要

- A. 冒頭の節で、著者はイエス・キリストの優位性についてまた大胆な宣言をしています。1節から3節で著者がイエスは預言者よりもまさっていると主張し、その考えを支持したように、今度は、イエスは御使いたちよりもすぐれていると主張しています。
1. 御使いたちは、ほとんどすべてのユダヤ人にとっても崇拜されていました。御使いたちは、ユダヤ人の歴史を通して神に用いられており、御使いの訪問を受けることは、人生を変える出来事でした。
 2. 御使いがユダヤ人に非常に尊敬されていた理由の一つは、律法との関連にあると考えられています。
 - a. 申命記33章2節には、神がモーセに律法を授けるためにシナイ山に來られた時のことが書かれており、その記述の中で、神は1万人の聖なる者たち（おそらく天からの御使いたち）と共にいたと言われています。「2 彼は言った。「主はシナイから來られ、セイルから彼らを照らし、パランの山から光を放ち、メリバテ・カデシュから近づかれた。」(申命記33章2節；CBS：Christian Standard Bible)
 - b. 御使いたちは、主からモーセに石の板を渡すために神に用いられた者たちだったと推測する人もいます。
 - c. この推測は、ガラテヤ人への手紙3章19節のように、新約聖書にも書かれていることによって、さらに裏付けられています。
 - i. パウロはそこで、律法について、そしてそれが仲介者によって御使いを通してどのように実現されたのかについて書いています。「19 では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けになった、この子孫が來られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもので、御使いたちを通して仲介者の手で定められたので

す。」(ガラテヤ人への手紙 3 章 19 節前半 ; CBS)

- d. 使徒の働き 7 章では、ステファノがユダヤ人たちがいかに頑固で、心がかたくなで、神の御霊の働きにいつも抵抗しているかを証言した時、彼はユダヤ人たちが御使いたちの指示によって律法を受けたが、それを守っていないことを述べました。

「53 あなたがたは、御使いたちによって定められた律法を受けたが、それを守ったことはありません。」(使徒の働き 7 章 53 節)

3. ユダヤ人たちは、神の律法を非常に崇拜していたので、それは当然、彼らが神の律法を守る一員であると信じていた御使いたちに対しても、畏敬と尊敬の念を持つようになりました。
4. ある者は行き過ぎた行動に出て、御使いたちを礼拝し始めました。これは、コロサイ人への手紙の中でパウロが取り上げなければならなかったことであり、そこには御使いの礼拝に人々を説得しようとする偽教師がいました。「18 あなたがたは、ことさらに自己卑下をしようとしたり、御使い礼拝をしようとする者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住して、肉の思いによっていたずらに誇り、」(コロサイ人への手紙 2 章 18 節前半)

- B. 御使いたちは、ユダヤ人に高く尊敬されていました。著者は 4 節で、イエスは御使いたちよりも少しすぐれているだけでなく、はるかにまさっていると主張しています。

1. しかし、著者は何の裏付けも証拠もなく、ただ大胆に主張するだけではありません。著者は、イエスが御使いよりもまさっている 10 の異なる方法を挙げて、主にユダヤ人が高く尊敬していた旧約聖書の聖句を引用しています。
2. もう一度、冒頭の 4 節を見てみましょう。そこでは、イエスが御使いたちよりもすぐれているという著者の主張を裏付ける 10 の理由うちの最初のものに注目していきます。

III. ヘブル人への手紙 1 章 4 節 ;

- A. 著者がその主張の証拠として最初に挙げるのは、イエスが相続した素晴らしい御名です。イエスはその御名の素晴らしさゆえに御使いよりもまさっています。

1. ここで著者が「name; 御名」という言葉を使う時、それは単に誰かが呼ばれている名前、つまり正式名称という意味に限定されず、その人の性格や評判についても語っています。

- a. その考えは理解できる、でしょう？ 私たちが、誰かがどのようにして名声を築いたかについて話す時、私たちはその人の正式名称について話しているのではなく、その人の性格や評判について話しています。

- B. 相続によって、イエスはより素晴らしい御名を得られました。イエスは神の子であり、その御名には重みがある。神の唯一の子であるということは特別な意味を持ちます。

1. イエスという名前は重要な名前です。その名前は、世の「救い主」として

の役割を語っています。

- a. マタイの福音書には、婚約していた女性マリヤが子供を身ごもったことを知った後、御使いがヨセフを訪れたという話書かれています。
 - b. 御使いがヨセフに言いました。「20 後半 ダビデの子ヨセフ。恐れな
いでああなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊
によるのです。21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつ
けなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方
です。」(マタイの福音書 1 章 20 節後半-21 節)
 - c. イエスという名前は、文字通り救い主を意味します。世の救い主とし
ての役割から、神がイエスに任命した名前です。
 - d. 聖霊に満たされた使徒ペテロは、イスラエルの支配者たちの前で次
のように宣言しました。「10 皆さんも、またイスラエルのすべての人々
も、よく知ってください。この人が直って、あなたがたの前に立っ
ているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえら
せたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。11 『あなたが
た家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった』というのは
この方のことです。12 この方以外には、だれによっても救いはあり
ません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人に
与えられていないからです。」(使徒の働き 4 章 10 節-12 節)
 - e. イエスの御名の素晴らしさ。これほどのものは他にありません。
2. 「9 それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与え
になりました。10 それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地に
あるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、11 すべての口
が、「イエス・キリストは主である」と告白して、父なる神がほめたたえ
られるためです。」(ピリピ人への手紙 2 章 9 節-11 節)
 - a. すべての膝をかがめるべきである。天にいる者たち、御使いたちを指
し、地上にいる者、生きている者を指す、地の下にいる者たち、おそ
らく贖われていない死者のことを指すのであろう。
 - b. 御使いたちは、イエスの御名に膝をかがめ、イエスを主と告白すべき
である。これは明らかに、イエスは御使いよりもまさっているという
主張を裏付けています。人は劣った者に膝を屈することはありません。
 3. エペソ人への手紙には、イエスがどのように置かれたかが次のように書か
れています。「21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世
ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に高
く置かれました。」イエスは、そこにある他のどんな名前よりもはるか上
に置かれています。(エペソ人への手紙 1 章 21 節)
- C. ですから、イエスは御使いたちよりもまさっています。しかし、それはイエス
がすぐれている理由の一つに過ぎません。著者の説明を続けましょう。次の 5
節を見ましょう。

IV. ヘブル人への手紙 1 章 5 節；

- A. この 5 節で、著者は 2 つの異なる情報源から引用して、非常に重要な点を指摘

しています。

1. 著者はまず詩篇2篇を引用し次のように質問する。『あなたは私の子。今日、私があなただを生んだ。』と、御使いの誰に言われたのでしょうか？明らかな答えは、誰もいないということです。神は、どの御使いにもそう言ったことはありませんが、メシヤ（救い主）に関してそう言われたのです。
2. 詩篇2篇はメシヤ詩篇として知られています。メシヤの勝利と将来の王国について語っています。
 - a. そこには、国々が荒れ狂い、人々がむなしいことを企てるさまが描かれています。「1 なぜ国々は騒ぎ立ち、国民はむなしくつぶやくのか。2 地の王たちは立ち構え、治める者たちは相ともに集まり、主と、主に油をそそがれた者にと逆らう。3 「さあ、彼らのかせを打ち砕き、彼らの綱を、解き捨てよう。」（詩篇2篇1節－3節）
 - b. しかし、神は彼らと彼らの弱々しい試みを笑うでしょう。
 - c. 詩篇の著者は、神が油注がれたメシヤについて語られた命令を次のように宣言しています。「7 わたしは主の定めについて語ろう。主はわたしに言われた。『あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなただを生んだ。8 わたしに求めよ。わたしは国々をあなたへのゆずりとして与え、地の果て果てまで、あなたの所有として与える。9 あなたは鉄の杖で彼らを打ち砕き、焼き物の器のように粉々にする。』」（詩篇2篇7節－9節）
 - d. 詩篇の最後に、詩篇の著者は王たちに知恵を持ち、教えを受けるようにと論じています。「10 それゆえ、今、王たちよ、悟れ。地のさばきづかさたちよ、慎め。11 恐れつつ主に仕えよ。おののきつつ喜べ。12 御子に口づけせよ。主が怒り、おまえたちが道で滅びないために。怒りは、いまにも燃えようとしている。幸いなことよ。すべて主に身を避ける人は。」（詩篇2篇10節－12節）
 - e. この詩篇はすべて、神が油注がれたお方であるメシヤ、神が御子と呼ぶ方について書かれています。
3. そして、それがヘブル人への手紙の著者が言いたいことです。イエスが神の御子であるという事実を語っているのです。サムエル記第二からの2つ目の引用でもそう述べている。
 - a. この引用は、サムエル記第二7章でダビデに与えられた言葉で、神が「わたしはこの方にとって父となり、この方は私にとって子となる」と宣言されたことを語っています。
 - b. サムエル記第二7章で、神の預言者ナタンがダビデのもとに来て次のように宣言しました。「12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。14 わたしは彼にとって父となり、彼はわたしにとって子となる。もし彼が罪を犯すときは、わたしは人の杖、人の子の

むちをもって彼を懲らしめる。15 しかし、わたしは、あなたの前からサウルを取り除いて、わたしの恵みをサウルから取り去ったが、わたしの恵みをそのように、彼から取り去ることはない。16 あなたの家とあなたの王国とは、わたしの前にとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。」(サムエル記第二7章 12節-16節)

- c. さて、この預言的な言葉は当初、ダビデの息子ソロモンによって部分的に成就しました。ソロモンは、ダビデの王座に着き、主の御名のために家を建てました。彼は不義を犯し、主に罰せられました。
- d. しかし、究極的な成就是、ダビデの王座に着き、永遠の王国を築くメシアによってもたらされます。ソロモンとは異なり、彼は不義を犯すことはない。彼は、御父の御心と御計画に完全に従い、神の子として知られるようになるでしょう。

B. イエスは神の子だから、御使いよりもまさっているのです。神が御使いを御子と呼ぶことは決してありません。

- 1. 御使いたちは、聖書のさまざまな箇所でも神の子と総称されているが、神の子として特別に扱われることはありません。神の一人子としてのこの関係は、イエス・キリストだけに与えられています。それが、イエス・キリストが御使いたちよりもすぐれている点の1つです。しかし、それだけではありません。6節を一緒に読みましょう。

V. ヘブル人への手紙1章6節；

A. この節は興味深いです。著者がここで何を言っているのかを理解するためには、いくつかの異なることを理解する必要があります。

- 1. まず最初に、この文章を単純に読み解くと、この言葉遣いは少々誤解を招きやすいです。といいますのも、私たちは「firstborn; 長子」と聞くと、すぐに生まれた順番を思い浮かべがちだからです。しかし、この言葉は、生まれた順番を指すことに限定されません。

a. 「長子」という言葉は、生まれた順にもかかわらず、何かや誰かに対する優先順位や優位性を語るときにも使われます。

b. 聖書には、この言葉がこのように使われる例がいくつかあります。

- i. この言葉は、詩篇89編27節でダビデに対して使われ、詩篇著者は神がダビデを自分の長子、地上の王たちの中で最も高い者とするを語っています。「27 わたしもまた、彼をわたしの長子とし、地の王たちのうちの最も高い者としよう。」(詩篇89編27節)

- あなたがもしダビデの物語を知っているなら、彼が兄弟の中で末っ子だったことを知っているでしょう。彼は自分の家族から高く評価されていませんでした。
- そのため、サムエルが息子たち全員を呼び寄せた時、エッサイはダビデを預言者サムエルに会わせることさえしませんでした。彼は、ダビデを羊の世話をさせるために野原に置き

去りにしていました。

- エッサイの息子たちは次々とサムエルの前を通り過ぎ、主は次々と「ノー」と言われました。サムエルはエッサイに尋ねなければならなかった。「11 サムエルはエッサイに言った。「子どもたちはこれで全部ですか。」エッサイは答えた。「まだ末の子が残っています。あれは今、羊の番をしています。サムエルはエッサイに言った。「人をやって、その子を連れて来なさい。その子がここに来るまで、私たちは座に着かないから。」(サムエル記第一 16 章 11 節前半)
 - 「12 エッサイは人をやって、彼を連れて来させた。その子は血色の良い顔で、目が美しく、姿もりっぱだった。主は仰せられた。「さあ、この者に油をそそげ。この者がそれだ。」(サムエル記第一 16 章 12 節)
- ii. この称号は、エレミヤ書 31 章 9 節で、北王国の一部であったイスラエルの子供たちを指すときにもエフライムに対して使われました。「9 彼らは泣きながらやって来る。わたしは彼らを、慰めながら連れ戻す。わたしは彼らを、水の流れのほとりに導き、彼らは平らな道を歩いて、つまずかない。わたしはイスラエルの父となろう。エフライムはわたしの長子だから。」(エレミヤ書 31 章 9 節後半)
- 興味深いことに、エフライムは後にイスラエルとして知られるようになるヤコブの実子ですらなかった。彼はヨセフの実子であり、その場合でもマナセに次ぐ 2 番目の息子でした。
 - それにもかかわらず、エレミヤ書では主の長子とよばれているのは、彼の優先順位、地位、イスラエルの他の北方部族より上の地位のためです。
2. ですから、著者がキリストを長子として語る時、混乱しないでください。それは出生順のことではなく、優位性のことなのです。
3. もう一つは、少し不可解なのは、ほとんど皆さんの聖書で、「神の御使いはみな、彼を拝め。」と書かれている箇所、この正確な相互参照が見つからないということです。
- a. それは、ヘブル人への手紙の著者が旧約聖書との相互参照のすべてにおいて七十人訳聖書を使用しているように見えるからです。
 - b. 七十人訳聖書は、ヘブライ語聖書全巻の最初のギリシャ語訳です。「七十人訳」と呼ばれることもあり、聖書学者たちは、ローマ数字の 70 (LXX) で略称しています。
 - c. 第二神殿時代のユダヤ人の多くは、古代ヘブル語を読むことができませんでした。そこで、紀元前 3 世紀にヘブライ語聖書をギリシャ語に翻訳するプロジェクトが立ちあげられました。当時ギリシャ語が最もよく知られた言語だったからです。このプロジェクトは、紀元前 2 世紀に完了したと多くの人が考えています。

- d. もし七十人訳聖書を読むなら、ヘブル人への手紙の著者が引用しているのは、申命記 32 章 43 節からきていることが分かるでしょう。
- i. New King James Version の聖書では次のように書いてあります。
「43 諸国の民よ。御民のために喜び歌え。主が、ご自分のしもべの血のかたきを討ち、ご自分の仇に復讐をなし、ご自分の民の地の贖いをされるから。」(申命記 32 章 43 節)
 - ii. しかし、New King James Version の聖書をよく見ると、最初の節の後に上付き記号による表記があります。そして、その脚注を見てみますと、「DSS: Dead Sea Scrolls 死海文書（最も古い聖書の写本）の断片では『そして、すべての神々（御使いたち）は彼を礼拝せよ』と付け加えられており、七十人訳聖書への相互参照も示されています。」
 - iii. DSS とは『死海文書』の略です。現代の英語訳の多くは、7 世紀から 10 世紀にかけての旧約聖書のマソラ本文に基づいています。
 - iv. これは当時、利用できる最良の情報源でした。しかしその後、1940 年代後半から 1950 年代前半にかけて死海文書の写本が発見され、より古く、おそらくより信頼できる写本に光が当てられるようになりました。死海文書の年代は、紀元前 3 世紀から 1 世紀の初頭の間のものでした。
 - v. 彼らは申命記の断片を発見しましたが、その中には 32 章 43 節の「すべての御使いたちが主を礼拝するように」という一節が含まれていました。
 - vi. ギリシャ語の七十人訳聖書でも、申命記 32 章 43 節にはこのように書かれています。ですから、ヘブル人への手紙の著者は、これを源にして使用していたと思われます。ヘブル人への手紙の原文のギリシャ語と七十人訳聖書のギリシャ語を並べると、完全に一致し、申命記からの直接引用となります。
- B. この節自体、最初は少しわかりにくいですが、メッセージの核心と著者が言おうとしていることは非常に明確である。御使いたちはイエスを拝めるように召されているので、イエスは御使いよりもまさっています。
1. 神の御使いたちは、御子を拝めます。彼らは、長老たち、四つの生き物、その他の天の軍勢と共に、天の御前でひれ伏してイエス・キリストを拝み、叫びました。「12 彼らは大声で言った。「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい方です。」(ヨハネの黙示録 5 章 12 節)
 2. すべての創造物は天国で拝み宣言します。「また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、およびその中にある生き物がこう言うのを聞いた。「13 御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にありますように。」(ヨハネの黙示録 5 章 13 節後半)
 3. 教会の家族のみなさん、神の御使いたちがイエスを見て、イエスが彼らの礼拝にふさわしいお方であるかを絶えず認めているのであれば、私たちは、

イエスがどれほど私たちの礼拝にふさわしいお方であるとすべきではないでしょうか？イエスは御使いたちのためにではなく、私たちのために殺されたのであり、私たちの罪のために死なれたのです！イエスさまは私たちのすべての礼拝にふさわしく、永遠に礼拝に値するでしょう！イエスさまが私たちの礼拝に値しない日や時はありません。ですからイエスさまに礼拝を捧げましょう。

C. 次に進んでいきましょう。次の7節を見ていきましょう。

VI. ヘブル人への手紙1章7節；

A. 神はイエスについて、彼は私の子であり、礼拝に値すると言う一方で、御使いたちについては、「御使いたちを風とし、仕える者たちを炎とされる」と言われました。

1. これは詩篇104篇4節からの引用です。「風をご自分の使いとし、焼き尽くす火をご自分の使える者とされます。」そして、ここで示されている基本的な考え方は、イエスは神の子であり、礼拝されるべき存在であるが、御使いたちは単に神の仕える者たちであるということです。彼らは、他の人々の必要を満たす公の仕える者です。

2. イエスは御使いたちよりもまさっています。なぜなら、御使いたちはキリストに仕える者として召されているからです。

- a. そして、イエス・キリストの生涯と宣教の中に、その証拠があります。
 - i. イエスが砂漠に行き、40日40夜断食した後、3度にわたって悪魔の誘惑を受けた時、悪魔はイエスの肉体を屈服させ、最終的には御父と御父の御計画に従うのではなく、悪魔に従うように仕向けようとしてしました。
 - ii. イエスが悪魔に抵抗して逃げ去った後、マタイによる福音書4章11節には次のように書かれています。「11すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。」(マタイの福音書4章11節)
- b. イエスがゲッセマネの園で、もし他に方法があるなら神がイエスの願いを聞き入れて杯を取り去って下さるよう祈っていた時、同じようなことがまた書かれています。
 - i. イエスが御父に祈っておられた時、次のように言われています。「43すると、御使いが天からイエスに現れて、イエスを力づけた。」(ルカの福音書22章43節)
- c. 御使いたちは神のしもべです。御使いたちは神の使者であり、神のしもべであるために神によって創造されました。それゆえ、イエスは御使いたちよりもすぐれています。

B. しかし、著者はまだ始めたばかりです。8節と9節を見ていきましょう。そこではイエスが御使いよりもまさっている理由がさらに3つあり注目していきましょう。

VII. ヘブル人への手紙1章8節-9節

A. これは、詩篇45篇からの引用です。詩篇45編の6節と7節です。そして、

なぜイエスが御使いよりもまさっているのか、その証拠となるようなことを、これらの節から注目したいことがいくつかあります。

- B. まず一つ目は、何よりもまず、これはイエスキリストの神性を支持する最も偉大な節の1つです。
1. 詩篇 45 篇で、著者はメサヤの支配と統治、その栄光と花嫁について書いています。この詩篇は結婚式でよく歌われます。この詩篇は、王とその威厳と義、そしてその花嫁がどのように王のもとに連れて来られるかを語っています。
 2. 6 節で詩篇の著者は、神の靈感のもとに次のように述べています。「6 神よ。あなたの王座は世々限りなく、あなたの王国は杖の公正の杖。」(詩篇 45 篇 6 節)
 3. イエスキリストは神です。詩篇の著者は、詩篇 45 篇でそう述べています。しかし、聖書の中でこの主張が見られるのはここだけではありません。
 - a. ユダヤ人たちは、イエスを殺そうとしたのは、イエスが神を父だと言い、自らを神と等しい存在だと主張したからです。

「18 このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。」(ヨハネの福音書 5 章 18 節)
 - b. テモテへの手紙第一 3 章 16 節でパウロは、イエスは肉において現れ、御霊において義とされ、御使いたちに見られ、異邦人の間に宣べ伝えられ、世にあって信じられ、栄光のうちに迎えられた神である、と言っています。

「16 だれもが認めるように、この敬虔の奥義は偉大です。「キリストは肉において現れ、霊において義とされ、御使いたちに見られ、諸国の民の間で宣べ伝えられ、世界中で信じられ、栄光のうちに上げられた。」(テモテへの手紙第一 3 章 16 節)
 - c. テトスの手紙 2 章 13 節でパウロは、私たちの偉大な神であり救い主であるイエスキリストの祝福された希望と栄光の出現を、私たちがいかに待ち望んでいるかについて書いています。

「13 祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現れを待ち望むようにと教えさせたからです。」(テトスへの手紙 2 章 13 節)
 - d. ヨハネの福音書 20 章 28 節で、弟子として知られるトマスは、復活したキリストの前で「わが主、わが神よ！」と言った。

「28 トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」(ヨハネの福音書 20 章 28 節)
 - e. ローマ人への手紙 9 章では、パウロはイエスの再臨と、イエスがいかに永遠に祝福された神であるかを書いていきます。アーメン。

「5 父祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめ

たたえられる神です。アーメン。」(ローマ人への手紙 9 章 5 節)

- f. 使徒ヨハネはその最初の書簡の中で、私たちがいかにキリストにあって、キリストがいかに真の神であり、永遠の命であるかを書いていきます。

「20 しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。」(ヨハネの手紙第一 5 章 20 節 後半)

- g. イザヤ書 9 章 6 節には次のようにあります。

「6 ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。」(イザヤ書 9 章 6 節)

4. 聖書を通して、私たちはイエスが神であることを何度も何度も読んでいます。イエスは、肉体を持った神です。聖書の主張を否定するものはありません。イエスは肉体において神であるから、御使いよりもまさっています。

- C. しかし、これらの節にはもっと多くのことが書かれています。イエスは肉体を持った神であるだけではありません。私たちはまた、イエスキリストの支配と統治が永遠に続くことを、これらの節から知ることができます。

1. 「神よ、あなたの王座はどこしえにある」イエスは、神の永遠の王国の王座に座る王である。イエスが義の杖をもって支配する。確かに、御使いたちはそれに比べれば見劣りします。
2. 繰り返しますが、彼らはただの仕える者であり、何かを支配しているわけではありません。御使いたちは、神の王国の一部であり、キリストは神の王国の王座に座っています。ですから、キリストは御使いよりもまさっているのです。
3. イエスは、神の王国を永遠に支配しているので、御使いよりもまさっています。

- D. そして、9 節の終わりには、イエスに対する神の油注ぎについて言及されています。「あなたは義を愛し、不正を憎まれます。それゆえ、神よ。あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました。」

1. イエスキリストが神によって油を注がれたのは、非常に特別な理由があるからです。その理由は何でしょうか？それはイザヤ書 61 章に書かれています。
2. 「1 神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた。捕らわれ人には解放を、囚人には釈放を告げ、2 主の恵みの年と、われわれの神の復讐の日を告げ、すべての悲しむ者を慰め、3 シオン

の悲しむ者たちに、灰の代わりに頭の飾りを、悲しみの代わりに喜びの油を、憂いの心の代わりに賛美の外套を着けさせるためである。彼らは、義の樅の木、栄光を現す主の植木と呼ばれよう。」(イザヤ書 61 章 1 節-3 節)

3. イエスは、その油注ぎの副産物のゆえに、御使いもまさっています。イエスが人々に宣教を始められた時、地元の街道に行き、イザヤ書の巻物を開いて、イザヤ書 61 章 1 節を読まれました。そして、巻物を巻き上げ、「今日、この聖句は、あなた方の耳にかなった」と言われた。「21 イエスは人々にこう言って話し始められた。「きょう、聖書のみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました。」(ルカの福音書 4 章 21 節)
 4. イエスは、貧しい人々に福音を宣べ伝え、心の傷ついた人々を癒し、捕らわれた人に開放を宣言するために、神から油を注がれました。捕らわれ、罪に縛られている人々に希望が与えられました。神は私たちを開放するために来られたのです。
 5. 神は、これらのことを行うために御使いを遣わされたのではありません。神は神の御子でありひとり子を遣わされたのです。御使いでは私たちを救うことはできません。人の姿をした神ご自身、イエスキリストでなければなりませんでした。
- E. 続けましょう。私は、イエスが御使いよりもまさっている 10 の理由があると言いましたが、7 つは話してきました。後、3 つあります。私と一緒に 10 節から 12 節を見ていきましょう。そこには、イエスが御使いよりもまさっているもう 2 つの理由が述べられています。

VIII. ヘブル人への手紙 1 章 10 節-12 節

- A. ここで著者は、詩篇 102 篇 25 節から 27 節を引用しています。そして、キリストの優位性をさらに裏付け、証拠立てる 2 つの事柄が目飛び込んできます。
- B. 1 つ目は、イエスがすべての創造主であることです。先週、イエスがいかに預言者たちよりも偉大であったかを論じた時に、この真理を指摘しましたが、ここでも同様である。
 1. 詩篇 102 篇では次のように始まっています。「25 あなたははるか以前に地の基を据えられました。天も、あなたの御手のわざです。」(詩篇 102 篇 25 節)
 2. 先週の学びで、キリストによって、天にあるもの、地にあるもの、目に見えるもの、目に見えないもの、王座、支配権、支配者、権力など、すべてのものが創造されたことを学びました。「16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあるもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、御子のために造られたのです。」(コロサイ人への手紙 1 章 16 節)
 3. ヨハネの福音書の冒頭には、次のように書かれています。「1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。2 この

方は、初めに神とともにおられた。3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。」

(ヨハネの福音書 1 章 1 節-3 節)

4. イエスは御使いたちを含むすべての創造主であるため、御使いよりもまさっているのです。
- C. しかし、ここには他にも指摘すべきことがあります。11 節と 12 節は、創造物、キリストの御業がいつか消え去る、滅びるが、キリストは残ると言うことを語っています。
1. 創造物は、衣服のように古くなり、いつかこの天地は取り払われる。古い外套のように、それはたたまれ、永遠に変わって脇に置かれる。しかし、キリストは変わることはなく、キリストの年は尽きることはない。
 - a. 預言者イザヤは、次のように宣言しています。「4 天の万象は朽ち果て、天は巻き物のように巻かれる。その万象は、枯れ落ちる。ぶどうの木から葉が枯れ落ちるように。いちじくの木から葉が枯れ落ちるように。」(イザヤ書 34 章 4 節)
 - b. 51 章では、イザヤは神の言葉を語っています。「6 目を天に上げよ。また下の地を見よ。天は煙のように散りうせ、地は衣のように古びて、その上に住む者は、ぶよのように死ぬ。しかし、わたしの救いはどこしえに続き、わたしの義はくじけないからだ。」(イザヤ書 51 章 6 節)
 - c. 新約聖書でペテロは次のように書いています。「7 しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。」(ペテロの手紙第二 3 章 7 節)
 - i. イエスは、世界を存在させるために語り、イエスの言葉によって、この世界は支えられています。しかし、私たちが知っているように、イエスがもはやこの世界をまとめられなくなる日が来ます。
 - d. 数節先に、ペテロは次のように続けています。「10 しかし、主の日は、盗人のようにやって来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくずれ去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。」(ペテロの手紙第二 3 章 10 節)
 - i. 私たちが知っているこの世界、そしてこの中にあるもの、私たちに与えてくれるもの、いつか、すべてが煙のように消え去るでしょう。長くは続きません。もしあなたがこの世やこの世のもののために生きているなら、それは長続きはしないし、満足させることもできないことを私はあなたに約束します。
 2. しかし、私たちが知っているこの世界は溶けてなくなるが、キリストは残ります。「8 イエス・キリストは、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。」聖書は、キリストは昨日も今日も、そして永遠に変わらない方だと語っています。(ヘブル人への手紙 13 章 8 節)
 - a. 私たちは、キリストに私たちの希望と信仰を置くことができます。なぜならキリストは決して変わらないからです。キリストはいつも私た

ちとともにいてくださる。私たちを決して捨てず、見捨てません。聖書は、主が私たちのために新しい天国と新しい地を創造し、永遠に主と共に住まわれると述べています。

b. 「4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前のものが、もはや過ぎ去ったからである。」(ヨハネの黙示録 21 章 4 節)

c. イエスが御使いよりもまっているのは、イエスだけが永遠に変わらないからです。イエスは決して変わらない。イエスは、永遠に私たちの賛美と礼拝にふさわしく、私たちはいつもイエスを頼りにすることができます。イエスは私たちを満たしてくださる。この世とこの世のものは、どうしても私たちにそれ以上のものを求めさせる。キリストだけが満たしてくださる。キリストだけが、永遠に忠実で真実であり続けます。

D. イエスが御使いよりもましている 10 番目に理由、最後の 2 節を見ていきましょう。13 節と 14 節を私と一緒に読んでください。

IX. ヘブル人への手紙 1 章 13 節-14 節

A. 最後の引用は詩篇 110 篇からです。

1. ヘブル人への手紙の著者は次のように尋ねています。「神は御使いたちのうち、誰にこう言われたことがあるか、『わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。』」そして、その答えはもちろん、その中の誰一人としていません。

2. 神は、ダビデを通してこのように言われました。ダビデは、詩篇 110 篇を書き、ダビデの血筋を通して来られるメシヤに対する神の言葉の証人として、この詩篇を書きました。「1 主は、私の主に仰せられる。「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。」(詩篇 110 篇 1 節)

3. 神が、御子をご自分の右の座に招かれたのは、御子が御父の要求されたことをすべて成し遂げられたからです。御子は、御父が御子に求めたすべてのことを成し遂げ、人が御父と和解する道を御造りになられたのです。

a. イエス・キリストがカルバリの十字架にかけられた時、「終わった」と叫ばれた。イエスは、神が遣わされた使命を全うされたのです。

b. そうして神は、父なる神が残りのことをなさる間、キリストをご自分の右の座に座らせ、最終的にキリストのすべての敵をキリストの下に従わせ、キリストに服従させるように招かれました。

B. キリストが御父の右の座に座っておられる間、御使いたちは何をしていますのでしょうか？ 14 節には、彼らは皆、救いを受け継ぐ者のために仕えるために遣わされた仕える霊である、と記されています。

1. それは、あなたであり、私のことです。イエスが、父なる神の右の座に座り、神から頼まれたことを成し遂げている間、御使いたちはその働きを続け、救いを受け継ぐすべての人のために仕えることを続けます。

2. イエスが、御使いよりもましているのは、神に召された仕事を終えたか

らです。イエスは神の右の座に招かれ、御使いたちは仕える者としてその努力を続けています。

X. 結論/聖餐式

- A. そういうことです。イエスは御使いよりもはるかにまさっています。
1. ユダヤ人たちは、御使いたちを崇め、高く評価していました。それは当然のことでした。しかし、キリストと比べると、御使いたちには何の根拠もありません。
 2. 御使いたちは、キリストに仕えるために造られ、キリストを礼拝するように召されています。そして、それは私たちも同じです。
 3. 御使いたちがキリストに仕えるために生き、キリストを礼拝するためにひれ伏すのであれば、私たちはどれほどキリストに仕え、キリストを礼拝するために人生を捧げるべきでしょうか？キリストだけが私たちに明け渡すことにふさわしい方なのです。そして、イエスだけが私たちの賛美と礼拝にふさわしい方なのです。
- B. 今朝は、月の最初の日曜日ということで、キリストとキリストがなされたことを思い起こし、キリストを礼拝する時間を設けたいと思います。
1. 賛美チームは前に出てきて賛美の歌をリードしてください。聖餐式の案内係は前に出てきて、聖餐式をするための物を配ってください。
 2. そして、皆さんにお願いしたいことがあります。これから数分かけて、キリストが私たちのためにしてくださったことを思い出してください。イエスの身体が私たちのためにどのように砕かれ、イエスの血が私たちのためにどのように流されたかを覚えてください。そして、皆さんにはただ礼拝で応えていただきたいのです。今日お話ししたこと、そして御使いたちに対するキリストの優位性について考えていただき、それが私たちの礼拝にも影響を与えるようにしていただきたい。
 3. そして、導かれるままに、あなたと主だけで、あなた自身で聖餐式を行っていただきたい。私は、いつものようにコリントへの手紙第一を読み返しません。
 4. あなたはただキリストを思い起こし、キリストがあなたのためにしてくださったことを思い出し、キリストがどれほど私たちの礼拝にふさわしい方であるかを思い出し、そして礼拝で応じてください。
 5. 礼拝の終わりに、もしまだ聖餐式をしていない方には、キャノンが促して、最後の1曲で終わりとします。